

Title	表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか
Author(s)	
Citation	物性研究 (1993), 61(3): 286-288
Issue Date	1993-12-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/95208
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成5年12月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第61巻 第3号

ISSN 0525-2997

vol.61 no.3

物性研究

1993/12

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンはB5で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の適当な箇所貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journalの投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（—）、ゴシック（ \sim ）、ギリシャ文字（ギ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいcとe、eとl、vとu、uとn、l（エル）と1（イチ）、O（オー）と0（ゼロ）、x（エックス）とX（カケル）、†（ダガー）と+（プラス）、 ψ と ϕ と Ψ と Φ なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンはB5で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の適当な箇所貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journalの投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（—）、ゴシック（ \sim ）、ギリシャ文字（ギ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいcとe、eとl、vとu、uとn、l（エル）と1（イチ）、O（オー）と0（ゼロ）、x（エックス）とX（カケル）、†（ダガー）と+（プラス）、 ψ と ϕ と Ψ と Φ なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

議 事 録

第7回物性専門委員会(第15期)議事録

日時 1993年11月10日(水) 13:00-17:00

出席者 伊達 宗行 石井武比古 勝木 渥 興地 斐男 小林 俊一
小松原武美 近 桂一郎 竹内 伸 張 喜久夫 長岡 洋介
中嶋 貞雄 深井 有 安岡 弘志、

[前回議事録の承認] 前回(第6回)議事録を承認した。

[報告]

1. 学術会議報告(中嶋)

- IUPAP総会(奈良)でコミッションメンバーの交代があった。学術会議メンバーと任期のズレがあることに問題があり、今後の検討課題である。
- 今日、物理学会理事と物研連幹事との懇談会を行う。
- 「21世紀将来ビジョン」のとりまとめ役を江沢洋氏が行うことになった。明日の本会議で議論していただくが、タイトルはもっとつつましくした方がよいのではなかろうか。
- 学術会議総会では「生物遺伝資源レポジトリーおよび細胞DNAレポジトリーの整備について(勧告)」を出すことになったが、ここでも縦割行政の壁がある。自由討論では尊厳死、学術国際協力について議論した。
- 第3常置委員会は国際化、学際化、阻害化要因の検討を行っている。
- 第6常置委は柔軟な予算執行の必要性や「学術国際貢献のための新たなシステム」について(別紙案)関係役所の係官に説明して意見を聞くことにしている。
- 数理科学国際研究所については第4部として五月総会に勧告案を出したい。設置形態をどうするか、また名称をどうするかは検討を要する。
- 94年国際会議の代表派遣は12月7日にしめきられる。
- 「日本学術の構造的諸問題」について伊達会員が話題として文章を発表した。要望があればコピーを差し上げられる。明治以来の官僚主導システム、日本と米国のシステムの比較について述べられており、第4部としてどう対応するかは未定だが、何らかの形でまとめて外に出したい。
- 学術会議の移転については、平成10年から横浜みなと未来地域へ移転すべく具体案を作成中である。

2. 物性研(竹内)

- 人事：凝縮系、中性子散乱で所員公募を開始した。前回報告の2件と共に選考中である。数名の助教授を教授に昇格する人事を考慮中である。
- 予算：超並列コンピューターを平成5年からレンタルすることになり12月早々に納入

される。スーパーコンピュータは平成6年導入をめざして努力中である（大蔵省まで上がっている）。中性子散乱研究施設（東海村）事務官常駐1名は既に着任している。研究員宿舎（所員居室も含む）は来年度早々に完成する予定である。

3. 基礎物理学研究所（長岡）

- 建物：9月末に新棟の着工が本決まり（学内調整済み）となって来年に着工し、竣工は再来年度になる。
- 大学院：理学部の大学院重点化にともない基研8部門が協力し、学生定員0.5人／部門（計4人）とする予定だったが、文部省から研究所各部門に対して修士2名、博士1名をつけるといってきたので協力部門を4部門減らすことにした。概算要求の成否に関わらず平成6年度から院生をとることにし、入学試験も済んでいる。
- 将来計画：平成9年には物性の部門に時限がくるのでこれを含めた改組を部門増も含めて検討している。部門増に当たり助手の振替をどう考えるかが問題である。計算機は基研なりに大きなものを持ちたい。
- 物性の教授1名の転出が決まっている平成6年1月頃公募する。

4. SR関係（石井）

- PFリング：共同利用実験の消化は順調である。スピン偏極光電子分光実験のビームラインが共同利用に供されることになった。他にも成果上がっている。低温実験用のSPLEED型スピン分解PESシステムが稼動しはじめた。PF次期施設長に木原氏が決まった。
- 高エネルギー物理学研究所Tristan II（B-factory計画）：文部省から大蔵省に350億円を要求中である。LINACの入射エネルギーを上げるための概算要求平成6年度に数億円行う。Tristan IIに移行するとARが不要になる。ARをSRに利用することの学問的意義を検討するワーキンググループができてきている（この一連の計画は物性研には関係ない）。
- PF改造計画（予備実験中）：エミッタンスを第3世代リングに匹敵する27nmradに上げる。PF改造計画は本格的な高輝度光源の実現を目指す物性研SR計画（5nmrad）には抵触しないと考えている。
- Spring-8のユーザーには文部省関係の機関に所属するものが多いので、Spring-8完成後の管理や共同利用についての諸問題（旅費＋ビームライン利用費等）について文部省の中で議論が行われている。Spring-8の管理・運営については、科学技術庁航空・電子技術等審議会の放射光分科会で検討されているが、同分科会は、今月中に一応の結論を出すことを目指しているようである。。

4. 物性グループ（長岡）

- 百人委員を各加入グループごとに選出するという制度の変更が百人委員の投票で承認された。現在、登録、会費徴集、百人委員の選出を進めている。百人委員の選出がすめば、物性委員の選挙を行い、うち上位数名を物性専門委員として推薦したい。登録の確実化のために物理学会会誌に案内を載せただけでなく、全体を20の小グループ

に分けて分担責任者を決め、確実に各部ループに連絡をとってもらうことにした。さらに、その結果を聞いて11月30日以後再び催促することになった。

5. 物性将来計画（長岡）

○物性将来計画WG：拡大WGを10月12日に岡山大で、先週物性研で開いた。物性研将来計画は大筋を承認した。内容は第1議題として、後刻提出する。今期中に報告書を物性専門委に出す（平成6年6月まで）こととし、起草委員として長岡、小松原、深井、安岡、家の5氏を決めた。また、九大学会でもっと広い範囲の意見を聞けるように用意したい。

○ネットワーク拠点：物性研以外でも施設を外部ユーザーが使えるように予算処置できるようにしたい。これについては第2議題として後刻提出する。

6. 伊達委員長報告

○将来の理工系人材の確保について科学技術会議（事務担当科技庁）20号諮問が出されている。これに関連して理科、とくに、物理離れをどうするかが問題になっている。チャンスを与えられているので20号諮問の議論の場にも参加し、物理教育を中心として理工系の現場研究者からの意見を直接述べたい。

○入試センターに蓄積された選択傾向のデータがあり利用できるというコメントが勝木委員からあった。

[議事]

1. 物性研究所将来計画について

○最新の「将来計画要約（所員会承認済）」が配布され、平成7年度に柏キャンパス取得費を概算要求するよう準備中であり、早ければ平成8年度に移転を開始する予定である旨竹内所長から説明があった。

○資料説明（安岡）：平成5年2月と10月の議論を踏まえて改訂した。概算要求にすぐ対応できるように用語等をなおした。当案で重点とされているものは研究センター群構想と研究のネットワーク化および共同研究の推進である。

従来のものと比較して、最も変更が大きかった点は、1) 研究部門と施設(4+1センター)を組織として分けた、2) 多重極限の中味例えば超低温を量子物性に変更した、3) 物性情報センターを独立させた、ということである。流動部門とは研究所内で部門を一定期間移すものをいう。大学院重点化での先端部門は移せるが、基幹講座は移せない。物性研のフレキシビリティを示す材料になり得る。

○質疑応答

Q：大学院はどうなっているか。

A（小林俊一）：柏新キャンパスにA～Dの4つの独立研究科が計画されている。Aブロックは理工系、Bは生命系、Cは環境、Dは国際協力である。物性研はAブロックの研究科に協力講座として参加する予定。

○結論

物性研の将来計画案（平成5年10月）を承認した。なお、今後、東大からの概算要求の過程で多少変更される可能性は残っている。

2. 物性研究ネットワーク構想（長岡）

個々の大学に属するセンター、施設、研究所のネットワークを作り物性研がその拠点となるという構想である旨説明があったのち、以下の議論があった。

○物性研では将来計画実現後の研究企画委員会が外部との関係も考慮しながら検討中していく。

○ネットワーク拠点には外部ユーザーのための予算指置（旅費、消耗品etc）が必要である。

○今後名称を物性研究拠点整備計画とする（前回使った名称）。

○物性研の物性情報センターを規模拡大してそのための仲介をするようにしてはどうか。

○実際の利用や協力の仕方についてはいろいろソフトにしておくべきである。

○文部省に対してお伺いを立てる項目をも含む弾力的な案にしておけばよい。

○物性研としては事務機構を含めた常置の受け皿をおくようにしたいがこれにはりつく所員の確保がむづかしい。予算の面では共同利用の経費が大幅に増えて、その一部がネットワーク活動に使えるようになることが望ましい

結論

ネットワーク構想の重要性を認め、今期中にその具体化を検討することになった。

3. 物性研究所委員の選出について

○共同利用施設専門委員の選考は従来通り物性グループの現在の100人委員で行うこととした。

○人事選考委員について投票を行い、その結果に従って

理論：斯波弘行（東工大）

実験：小林俊一（東大理）

一般：本河光博（神戸大理）

の3名を物研連本会議に提案することになった。

以 上

掲 示 板

「修士論文」募集

例年、本誌では、各大学の物性分野の修士課程修了者の研究内容を紹介しています。本年も1993度の修士論文を募集したいと思います。学術的に価値の高いもの、研究内容がユニークで面白いもののほか、研究は完成していないが今後に興味ある問題提起を含むものや、Review 的な力作など、特色のある修士論文を投稿して下さい。紙数の許す限り掲載したいと思います。掲載の可否については編集委員会にご一任下さい。

1. 募集締切：1994年3月末日
2. 自薦、他薦は問いません。
3. 論文のコピーを2部お送り下さい。できるだけ、そのまま写真印刷できるワープロ原稿を歓迎します。その場合、図や写真は文中該当箇所に入れて下さい。
4. 英文での投稿も受け付けますが、原則として、掲載に際しては、英文の修士論文は日本語に訳していただきます。
5. 枚数制限は特にありませんが、できるだけ簡潔なものを希望します。枚数の多いものは、縮めていただく場合があります。
6. 採用、掲載された論文の著者には別刷50部、無料で差し上げます。

「講義ノート」募集

本誌では、大学院特別講義の「講義ノート」を募集します。これまで一部の大学に限られていましたが、枠を広げ全国の大学で行われる、物性関係の興味ある講義のノートを掲載したいと思います。つきましては、関係各位の方々に講義ノートの作成について御尽力をお願いします。

通常、大学院生にノートをとっていただき、講師のチェックの後、掲載しています。講師には別刷50部を寄贈し、ノート作成者には薄謝と別刷20部程度を差し上げています。講師の了解などはこちらで交渉いたします。また、退官記念講演なども、歓迎します。内容と記録の可能性を考慮して、推薦もしくは投稿下さるようお願いいたします。

科研費総合研究・一般研究の 報告書の転載について

「物性研究」では、科研費総合研究及び一般研究の報告書を本誌に転載したいと思えます。研究成果報告として、立派な報告書が作成されても、限られた部数が関係者のみに配布される状況では、誰もが手軽に見ることが出来ません。また、そういった形の報告書は四散して失われる危険も大きく、本誌のような定期刊行物に掲載されれば、公開、保存のいずれにおいても意味があります。つきましては、ご投稿あるいはご推薦下さいますようお願いいたします。

既に印刷済みの報告書 2部を、転載を希望される部分を明示の上、お送り下さい。別刷はお渡ししないことになっておりますが、もし希望の場合は、部数をご連絡下さい。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

〒606-01

京都市左京区北白川追分町

京都大学 湯川記念館内

物性研究刊行会

TEL. (075)753-7051, 722-3540

FAX. (075)722-6339

編集後記

このところ、本誌の発刊が遅れ気味でご迷惑をお掛けしています。本12月号が読者のお手元に届くのは大学受験シーズンのさ中でしょう。遅ればせながら、明けましておめでとうございます。

京大のいくつかのキャンパスでは、車の入構制限が久しく懸案になっています。実際、基研・理学部のある北部キャンパスでの駐車状況は目に余り、火事が起きても消防車に入ってもらえない程です。それで、消火訓練の時には前もって車を移動してもらおうという滑稽なことをまじめに行っています。入構制限を計画すると、異なった階層の利害が対立して暗礁に乗り上げるのが常です。もちろん、反対する側にしても現状が良いと思っているはずはありません。また、首尾よく合意に達したとしても、排除された車は確実に近辺の環境を害するでしょうから、問題は一大学だけでは閉じません。

どうにもならないほど狭くなったキャンパスに、「拡充計画」でさらに建物を増やそうとするから大変です。風致地区に指定されているので高層化もできません。地面を掘ると、さすが古い歴史を誇る地だけあって、いたるところに重要埋蔵文化財が出土して、しばしば工事ストップになります。それで最後にキャンパス移転という話になります。

量の継続的拡大を前提とした社会が早晚破綻することは目に見えています。いつも成長し続けていなければ安定性が保てないような社会は異常でしょう。実は誰もがそれを知っているが、知らぬふりをしているだけなのでしょう。それもまた異常な社会と言えないでしょうか。将来計画と言えれば例外なく量的拡大の必要性を唱える大学も同断と言ったら言いすぎでしょうか。それも、「独創的研究の発展を旨として」とか「社会的要請に応えるため」とかの美辞麗句がつくから、ますますたちが悪くなります。たしかに、絶対的に不足しているものもありますが、なくてよい沢山のものを切り捨てることに関しては大学人はそれほど熱心とは思えません。しかし、前記のような疑問が最近少しずつ各方面から出されはじめていることは嬉しいことです。ただ、それらの声はまだ余りに微弱です。定常な、あるいは循環的な安定性ということがもっと真剣に論じられてよいと思います。本来はこのように最も敏感で積極的でなければならない大学人が、現実行動においては「まだ足りない、まだ足りない」と、最も通俗な成長神話に呑込まれているように見えるのは偏見でしょうか。

(Y.K.)

物 性 研 究 第 61 卷 第 3 号 (平成 5 年 12 月号) 1993 年 12 月 20 日 発行

発行人	池田研介	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 19,200 円

編集後記

このところ、本誌の発刊が遅れ気味でご迷惑をお掛けしています。本12月号が読者のお手元に届くのは大学受験シーズンのさ中でしょう。遅ればせながら、明けましておめでとうでございます。

京大のいくつかのキャンパスでは、車の入構制限が久しく懸案になっています。実際、基研・理学部のある北部キャンパスでの駐車状況は目に余り、火事が起きても消防車に入ってもらえない程です。それで、消火訓練の時には前もって車を移動してもらおうという滑稽なことをまじめに行っています。入構制限を計画すると、異なった階層の利害が対立して暗礁に乗り上げるのが常です。もちろん、反対する側にしても現状が良いと思っているはずはありません。また、首尾よく合意に達したとしても、排除された車は確実に近辺の環境を害するでしょうから、問題は一大学だけでは閉じません。

どうにもならないほど狭くなったキャンパスに、「拡充計画」でさらに建物を増やそうとするから大変です。風致地区に指定されているので高層化もできません。地面を掘ると、さすが古い歴史を誇る地だけあって、いたるところに重要埋蔵文化財が出土して、しばしば工事ストップになります。それで最後にキャンパス移転という話になります。

量の継続的拡大を前提とした社会が早晚破綻することは目に見えています。いつも成長し続けていなければ安定性が保てないような社会は異常でしょう。実は誰もがそれを知っているが、知らぬふりをしているだけなのではないでしょうか。それもまた異常な社会と言えないでしょうか。将来計画と言えれば例外なく量的拡大の必要性を唱える大学も同断と言ったら言いすぎでしょうか。それも、「独創的研究の発展を旨として」とか「社会的要請に応えるため」とかの美辞麗句がつくから、ますますたちが悪くなります。たしかに、絶対的に不足しているものもありますが、なくてよい沢山のものを切り捨てることに関しては大学人はそれほど熱心とは思えません。しかし、前記のような疑問が最近少しずつ各方面から出されはじめていることは嬉しいことです。ただ、それらの声はまだ余りに微弱です。定常な、あるいは循環的な安定性ということがもっと真剣に論じられてよいと思います。本来はこのように最も敏感で積極的でなければならない大学人が、現実行動においては「まだ足りない、まだ足りない」と、最も通俗な成長神話に呑み込まれているように見えるのは偏見でしょうか。

(Y.K.)

物 性 研 究 第 61 卷 第 3 号 (平成 5 年 12 月号) 1993 年 12 月 20 日 発行

発行人	池田研介	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200 円		

会員規定

個人会員

1. 会費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume (4月号～9月号)	4,800円
	2nd Volume (10月号～3月号)	4,800円
		計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都1-5312

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意ください。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

機関会員

1. 会費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、年会費19,200円(1 Volume 9,600円)です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類(請求、見積、納品書)が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意ください。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
電話 (075)753-7051, 722-3540
FAX (075)722-6339

物 性 研 究 61—3 (12月号) 目 次

○講義ノート

「複雑流体のレオロジー」……………土井 正男…… 179

○Dispersing Billiardsの半古典論……………原山 卓久、首藤 啓…… 222

○議事録

第7回物性専門委員会(第15期)議事録…………… 282

○掲示板…………… 286

○編集後記…………… 288

物 性 研 究 61—3 (12月号) 目 次

○講義ノート

「複雑流体のレオロジー」……………土井 正男…… 179

○Dispersing Billiardsの半古典論……………原山 卓久、首藤 啓…… 222

○議事録

第7回物性専門委員会(第15期)議事録…………… 282

○掲示板…………… 286

○編集後記…………… 288